

研究推進委員会通信

平成30年6月1日

5月31日（木曜日）にプレ授業研究会を実施し、多くの先生に参加していただきながら、6月4日（月曜日）に実施される第1回授業研究会の方法を検討しました。

今回の授業は実社会と学びのつながりを意識し、「文化祭における販売実習」をテーマに既習事項の損益分岐点の計算方法を活用する内容でした。指導方法のポイントは、グループ学習ではなく、教室全体で考えを交流させる場面を設けることで、教室全体で学ぶ雰囲気醸成でした。

コンパクト授業研究会では郡上北高校の先輩教員が中心となって進めていただき、次回の授業研究会に向けた手法の確認をしていただきました。



自身の授業で取り入れたいと感じたいこと（授業の手法等）はどのようなことですか

- ・ 自己評価票のグラフ化、すごく良いと思いました。
- ・ 生徒が生き生きしていました。
- ・ 生徒の意見を引き出すための引き出し。
- ・ 生徒に説明させること。生徒が相互に説明をすること。
- ・ 生徒への指示が具体的なので、生徒にはとても分かりやすい。
- ・ 生徒に対する評価（発言に対する）。
- ・ 肯定的な声かけ（自己肯定感が高まる授業でした）。

グループの先生の話や他グループの話聞いて「なるほど!」と思ったこと

- ・自己肯定感を高める指導の大切さ。
- ・グループ学習ではないところ（あえて全員で進めている）。
- ・課題の明示、本時の内容を明確にすることでより深い理解につながる。
- ・自己評価の意味。
- ・自分の中で考えがまとまらないと発言できない。
- ・自己肯定感がないと適切に能力が育たない。
- ・生徒の身近な話題を取り入れていて、興味関心をひくこと。

「主体的・対話的で深い学び」について知っていること。

- ・説明することが大切。
- ・1つのテーマに徹底的した討論を行う。
- ・生徒が自ら学ぼうとする意識を持ち、受け身ではない授業。
- ・思考、発言、人の意見と相違の発見。
- ・自ら学び、活動的な授業展開。生徒の意見交流を通じて考えを深める。

大学入試改革に向けて、授業改善をしていること

- ・「読む→書く」を毎時間やるようにしている。
- ・自己評価票や提出物の内容を正しい文章になるように指導をしている。
- ・小論文や志望理由書作成に役立つ知識を入れておく。
- ・生徒に分かるまで粘り強い指導。
- ・表現力を養う授業。
- ・質問に対して、文章で答えさせる。理由なども含めどのような思考からそうなったのか。
- ・語句や文法を中心に展開している。
- ・主題に対して生徒が学習活動を通して徐々に深めていくこと。

授業で困っていること

- ・生徒の理解度の差。
- ・身近なテーマ。
- ・生徒の関心をどのように持続させるか。
- ・あきらめ、意欲を持たない生徒をいかに「やる気」にさせるか。
- ・すぐ私語をする生徒、何もしない生徒への対応。
- ・学習意欲。
- ・提出物を出さない生徒への対応。

多くの先生が教科指導に困難さを感じています。すべての根底にあるものは、生徒の意欲の向上だと思われます。生徒が「わかった!」と感じられるような授業づくりを目指しましょう。授業の目標・見通しを明確にし、目標の達成度を自己評価表に記載させ教科担任がチェックすることで、授業改善の材料になるのではないかと思います。